



人間開発を求めて

インド・プロジェクト責任者・三浦 照男

「人間開発」。アジア諸国で開発の仕事に携わってからそれはどういうことなのかということはずっと考えてきました。その間も、エンパワーメント、キャパシティビルディング等、日本語では真意が伝わらないかのように英語の開発用語が飛び交う状況です。しかし、それを使っている多くの方々も、それがどのようなことを意味し、結果としてどのような成果を生み出しているのか、実感できないのでは。。。

先般「農村出身のスタッフや加工のおばちゃん達がいきいきしているね。変わったねえ」。1年ぶりでアラハバード来訪の専門家が発したことはばです。感嘆にも似た響きでした。毎日接している私たちにはあまり気づかないことも、1年ぶりで会う人たちにとっては、その変化がよく感じられるようです。「以前にも増して、自信を持って仕事をやっているよ。しっかり、受け答えができていますね。自分の仕事に誇りを持っているようだ。」

毎年2月、アラハバードには短期専門家が数人やってきて、プロジェクトスタッフ、農村住民ワーカー（農村女性ボランティア等）に技術指導をしています。そのリピーターの何人もが異口同音なのです。お世辞を考慮に入れたとしても、かれらの「開発」は確実に進んでいるようです。それは専門家の指摘を受けた私たちも改めて「なるほど」と思うからです。

「人間開発」を進めるということは意識的、人為的な変化を人々に求めていることでもあります。人々が常に前向きに生き、積極的なプラス志向で突き進んで行く状態をつくっていくこと、いきいきと生活できる環境にすること、自信と誇りを持って生きていくこと、そして隣人のためにも尽力することが尊ばれること、これらが正に「人間開発」が目指すことなのだと思います。その為には、先ず私たちが変わり、そして周囲の人々も共に、人間開発が目指す方向へと変わっていくように、これからもたゆまず努力を続けることが必要なのです。